

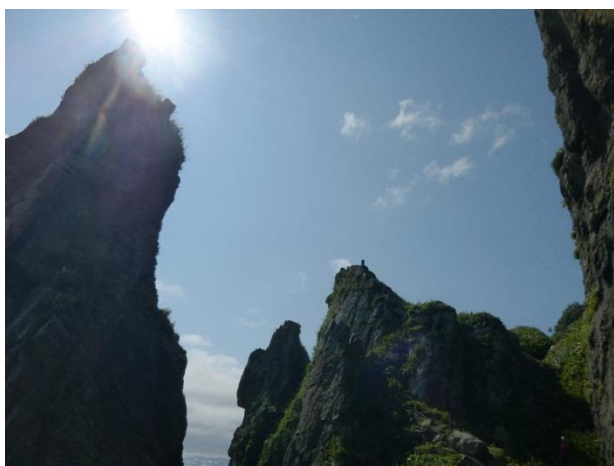
知床の窓から見えるもの

2014年8月13日（水曜日）

「ふるさと少年探検隊」

「行ってきます！」元気に出発した第32回ふるさと少年探検隊、羅臼町の小中学校の40名と同行スタッフ29名が5泊6日の知床半島縦走に向けて出発しました。私は、看護師として救護ボランティアで参加させていただきました。

相泊から出発し、不安定な石や崖を登りながら、初日はベースキャンプ地「モイレウシ」まで歩きます。この日は波が高く、安全ベルトを締めながら波に飲み込まれないよう岩場を進みます。（ちなみに私は、足が滑って波に飲まれました・・・全身海に浸かって撃沈）それでも、全員大きな怪我もなくモイレウシに到着です。わんぱく隊（小学4年～6年生）は5泊6日ここでテントを張ってキャンプします。



【観音岩：沢山の観音様が岩に埋まっていました】



【険しい崖や岩を登り降りします】



【海の色や岩が神秘的！】



【モイルス湾：ベースキャンプ地】

翌日からチャレンジ隊（小学6年～中学3年生）は知床岬に向かって進みます。私はチャレンジ隊のスタッフとして同行しました。念仏岩やカブト岩などかなり急斜面の崖を安全ベルトを締めながら、登り降りるかなりしんどい道のりでした。途中で熊に遭遇し、爆竹を鳴らしてもなかなか道を譲ってくれません。「ここは、自分の道

だ・・・」というような態度で、初めて熊を見た私は、少々興奮気味でした。ようやく山へと帰っていき、様子を見ながら我々も前に進みます。歩いて歩いてようやく知床岬に到着です！

この辺は、同じ日本にいるとは思えない位、すばらしい景色にまたまた興奮します。灯台に登ると、さらに美しい景色を堪能できました。さらに進み、斜里側のチャレンジ隊のゴール地点「啓吉湾」に到着です。ここで羅臼では見られない、沈んでゆく夕日を見ながら、ロマンチックに浸っていました。夕日が沈むとランタンの明かりで夕食、そのまま砂浜で寝袋にくるまりながら、満点の星空を見て、またまたロマンチックに浸りながらの就寝でした。



【女滝と男滝がありました】



【岬の先端が見えてきました】



【夫婦岩にて】



【啓吉湾での夕日は最高！！】

翌日は、水着に着替え、子供達と一緒に海で泳ぎ、岩からダイビングしたりと、楽しみました。午後から船でわんぱく隊が待つ、ベースキャンプ地まで戻ります。出発から一度もお風呂に入れず、川で洗髪したり、身体を拭いたりしか出来なかったのですが、わんぱく隊が作ってくれたお手製の「モイレウシの湯」（川から水を吸い上げ、沸かしたお風呂）に少し浸ることができ、幸せだな～と声が漏れる位でした。1日ここで、わんぱく隊とチャレンジ隊が釣や楽器作りなどの活動をして、最終日また相泊まで向けて来た道のりを帰ります。この日もかなり暑く、足の痛みで過呼吸になった子供を励ましながら、相泊まで来ると出迎えていた子供達の親が安堵の表情で出迎えていた姿を見て、すっかり私も泣いてしまいました。子供達も、日焼けした顔が遅しく見え、この探険隊で確実に成長したんだなと改めて感じました。そして私は・・・5泊6日鏡を見ることがなかったので、家に帰ってきてビックリです「あなたは誰??」あまりにも日焼けした顔に鏡を何度も見直してしまいました。でも、その姿にここにも一人成長した自分があるなど苦笑いです。



【川の水をくみ上げ、沸かした温泉は旅の疲れを癒やしてくれました】



【班で作った旗を掲げています】



【帰りも険しい道のりでした】

この探険隊の行事は決して楽しい事だけではなく、身体的にも精神的にもきつい事もたくさんあります。でも、集団生活をしながら共に辛い事も楽しい事も経験し、友情が深まったり、相手を思う気持ちを養えたり、自分自身を強くするきっかけになると思いました。私もこの体験から、得た事はたくさんありました。羅臼に来なければ、こんな貴重な経験もできなかったし、参加できるように勤務調整してくれた師長を始め、スタッフの皆様にご感謝します。

最後にこのような企画を3回も続けている羅臼町は、本当に素晴らしい町だと改めて実感しました。

